

清泉カトリック センター便り

第14号
平成26年
11月5日

【編集・発行 カトリックセンター】

今月のみことば

「母マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」

アヴェ・マリアの祈り

アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、主はあなたと共におられます。

あなたは女の内で祝福され、

ご胎内の御子イエスも祝福されています。

神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、今も、死を迎える時も、お祈りください。

アーメン

「母マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」

(ルカ2・19、2・51)

ここにマリアの深い信仰心が現われています。様々な出来事に隠されている神の愛を頭で理解しようとすると、心に注意深く留めて思い巡らすことよって悟ろうとする態度です。つまり日常生活のごく当たり前の出来事の中から神の呼びかけのしるしを感じ取る為、愛に満ちた静かな心で、マリアは思い巡らしていたのです。しかしそれには日常の些細なことのうちに、驚きと不思議さを見出す敏感な心が必要です。

私たちもマリアのように平凡な毎日の生活の中で何を大切にすればよいか、また、神が私に何を望んでおられるのかを注意深く思い巡らしたいです。(文責 窪寺洋子)

追悼ミサ

11月は「死者の月」、亡くなった隣人を追悼する月です。以下の日程で「追悼ミサ」を行います。皆さまのご列席をお待ちしております。

日時: 11月6日(木曜日)4時30分より 1時間ほど

場所 聖心館 チャペル

「お昼のミサ」

お昼休みの時間に聖心館でミサがあります。ふるってご参加ください。

日時: 12月3日(水曜日)12時20分～12時50分



キャンパス正面、「アンの薔薇」の片隅に。一本の薔薇が丁寧に保護されて咲いています。管理のSさんに感謝!

ロザリオの祈り



ムリーリョ
ロザリオの聖母



カトリック教会では、十月を「ロザリオの月」としています。ロザリオとは、規則性をもって連なった数珠のことで、その数珠を主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱と唱えながらつま練り祈ってゆくのがロザリオの祈りです。

このロザリオの祈りは、十三世紀頃から始まったとされ、特に十五世紀ドミニコ会によって広められたと謂われています。ロザリオ、その名の由来は「薔薇の花園」を意味するラテン語からきていますが、祈りが広まった時代、イエス・キリストの母マリアへの

崇敬が高まり、聖母マリアに霊的な薔薇の冠をお捧げするといった思いからロザリオと名付けられたと伝えられています。

祈りの仕方は、主の祈りを一回、アヴェ・マリアの祈りを十回、栄唱を一回唱えるのを一連とし、これを五連祈ると一環の祈りとなります。伝統的には、この一環に喜びの神秘(受肉)、二環に苦しみの神秘(受難)、三環に栄光の神秘(復活、昇天、聖霊降臨)といったイエス・キリストとその母マリアの神秘を黙想し祈ってゆきます。しかし2002年、聖ヨハネ・パウロ二世(2014年列聖)は、

使徒的書簡『おとめマリアのロザリオ』でさらに光の神秘(イエスの公的生活の五つの秘儀)を加えました。

聖ヨハネ・パウロ二世は、ロザリオの祈りをマリアと共にイエス・キリストを観想する優れた祈りとして復興するよう求められ、2002年10月より翌2003年10月までを「ロザリオの年」と宣言されました。こうして「ロザリオの祈り」は、今また新たな光が与えられたのです。

(文責 酒井宗代)